

## 図書館職員が選んだ 「おすすめ食育本」を紹介します！



毎年6月の「食育月間」の前後に、名古屋市内の各図書館の展示コーナーにおいて、食育本を紹介して市民の皆さんに手に取ってもらえるようご協力をいただいています。

今年もいくつかの図書館に、展示本のうちの一冊について紹介文を書いていただきました。それぞれの図書館の魅力や特長もお聞きしましたので、実際に足を運んでみて、本と食育の世界に触れてみませんか？

☆これより先は、図書館名に続いて ①おすすめ食育本の紹介 ②図書館の魅力・特長の紹介の順で、いただいた紹介文を載せております。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、食育月間期間中に展示コーナーが開催されない可能性もございますので、ご留意願います。



### 【東図書館】

#### ①『はなちゃん12歳の台所 その後の、『はなちゃんのみそ汁』』

安武はな/著 タカコ ナカムラ/レシピ監修 家の光協会

はなちゃんは、5歳の時にガンでなくなったお母さんに、みそ汁の作り方を教わります。それ以来毎朝5時に起きてみそ汁をつくってきました。この本には12歳になったはなちゃんのお気に入りメニューが紹介されています。お母さんとの思い出や、食べてくれるお父さんとのエピソードも添えられています。「食べることは生きること」と教えたお母さんは今もはなちゃんの胸の中にいて、はなちゃんをしっかり支え、成長させています。

#### ②東図書館は、地下鉄「ナゴヤドーム前矢田」駅に直結し、ちょっと長いデッキを5分ほど歩くと到着。館内には11万冊の本。やさしい英語ながら、わくわくどきどきの絵本や物語もたくさんあり、子どもも大人も夢中になれます。「ドラゴンズ応援コーナー」など、スポーツの本も充実。区内工芸高校生徒デザインのティーンズコーナーはカフェ風でおしゃれ。高校生おすすめの「高校生セレクトコーナー」「ぶんごう(文豪)コーナー」も。

皆様ぜひ、お立ち寄りください！

### 【瑞穂図書館】



#### ①『おいしい給食』紙吹みつ葉/著 中央公論新社

「給食のために学校に来ている」ほど給食が好きな中学の数学教師。彼は毎回献立を緻密に計算し、バランス良く味わっている。彼の学級の中に、給食に手を加えさらに美味しく味わおうと工夫を凝らす者がいた。勝手な真似を、と咎める担任の視線には羨望の気持ちが溢れていた。その視線に当の生徒も気づいていた。誰かと一緒に食べること、それはとても大切なことなのです。

②瑞穂図書館は地下鉄「瑞穂運動場東」駅から歩くと、道路の左右にスタジアムが見えます。シーズン中はたいそうな賑わいです。地下鉄「新瑞橋」駅から歩くと、春は山崎川の桜が美しく、足下を見ると薄桃色とは別の色合いの、様々な花が咲いています。川沿いは四季折々の風景を楽しむことができます。どの駅からも徒歩8分ほどで到着します。



### 【熱田図書館】

#### ①『和菓子のほん』中山圭子/文 阿部真由美/絵

春は桜や菜の花、夏はほたるや水のせせらぎ、秋は紅葉、冬は雪…など四季のうつりかわりを、色や形で表した和菓子。これらは、日本の年中行事とも深く結びついています。作り方や歴史などとともに色鮮やかな和菓子のイラストが美しい一冊です。和菓子の世界をたっぷり味わってみませんか。

②熱田図書館は令和2年に、開館 60 周年を迎えます。昭和 35(1960)年に、名古屋市立で3番目の図書館として、熱田神宮の敷地内に開館し、長く市民のみなさまに親しまれていました。その後、現在地である熱田区複合庁舎の北館に移転しました。例年、食育月間にあわせて「歴史ある熱田の食文化」についての講演会を開催しています。



### 【中川図書館】

#### ①『手で食べる?』森枝卓士/文・写真 福音館書店

日本ではお米をおはしで食べることが多いですが、韓国ではスプーン、インドでは手で食べるそうです。同じお米でも形や性質が違うので、食べかたも違ってくるのですね。人間は、道具を作ったり、手で食べる時のきまりを作ったりして、食べものをおいしくきれいに食べられるように工夫してきました。そのどれもが「文化」なのです。さあ、この本を見て、あなたも一度手で食べてみませんか？

②中川図書館はあおなみ線荒子駅から徒歩3分、交通の便がいい図書館です。中川文化小劇場と併設の建物の1階にあり、中に入ると吹き抜けの明るい閲覧室に約9万冊の本が並んでいます。中川区ゆかりの武将、前田利家に関連する資料を集めたり、近隣の荒子観音にちなんで円空仏を展示したりと、特色あるコーナーを作って皆様のご来館をお待ちしています。

【富田図書館】

## ①『とうもろこしからそだてるオムレツ』 真木文絵/文 偕成社

オムレツの材料は卵、牛乳、バター、ケチャップ。どれもお店で簡単に買うことができる食品です。しかしそれらの食品をつくるには、まずえさとなるとうもろこしをつくり、ニワトリや牛を育てて卵や牛乳をとり、トマトを育ててケチャップへと加工をしなければいけません。なにげなく口にしているオムレツにはとてもたくさんの時間と手間がかかっていることを学べます。

②富田図書館は、中川区の富田公園北側にあります。図書館をとびだして富田公園で行う乳幼児向けおはなし会が好評です。仲間どうして相談しながら作業できるグループ学習室は、小中学生によく利用されています。蔵書数約6万冊の図書館です。

【南図書館】

## ①『スポーツキッズのお弁当レシピ』 川端理香/著 PHP 研究所

育ち盛りの子どもは、体を動かすとお腹が空きますよね。ですが、たくさん食べればそれでよいというわけでもありません。必要な栄養を必要な分摂取することで、体の成長を助けることができます。持久力、筋力、瞬発力の3つのテーマで1週間のお弁当メニューが紹介されているので、食のサポートに悩んでいる人におすすめの1冊です。

②南図書館は名古屋市営バス「千竈通2丁目」すぐにある、文化小劇場併設の図書館です。ティーンズコーナーや認知症コーナー、防災コーナーなど様々なテーマで本を紹介しています。2階には伊勢湾台風資料室が併設されており、当時の被害状況など、災害に関する資料を数多く取り揃えています。ぜひ一度お立ち寄りください。

【緑図書館】

## ①『給食室のはるちゃん先生』 光丘 真理/文 佼成出版社

小学校の学校栄養士を務めていた関はる子さん、通称“はるちゃん先生”は、給食を通して子どもたちの「食」を見守ってきました。栄養についてわかりやすく教えたり、小学校を卒業した後も給食の味が楽しめるようにレシピを渡したり、子どもたちに「食」の大切さ、楽しさを伝えるために色々な工夫をしています。食べるのが大好きだった子ども時代から、栄養士になるまで、そしてはるちゃん先生と子どもたちとのふれあいが描かれた一冊です。

②緑図書館は昭和47年8月12日開館。平成28年7月に改装されて新しくなりました。高台に建っており、素晴らしい展望と日当たりの良い明るい図書館で、市民の学習と憩いの場になっています。館内には緑区の伝統工業鳴海絞りの展示と関連書籍を集めた「染めと織りのコーナー」や子育てに関する様々な書籍を集めた「子育て支援コーナー」を設置。地域の人々に親しまれる図書館づくりを目指しています。



### 【天白図書館】

①『実像 広島「ばっちゃん」中本忠子の真実』 秋山千佳/著 KADOKAWA

非行少年に長年にわたり無償で黙々と食事を提供し続け、「広島のマザーテレサ」とまで称されるようになった中本忠子(ちかこ)さん。「なぜここまで人のために尽くせるのか」マスコミ等によって作り上げられた虚像にあきたらず、その奥に秘められた真実の姿に執拗に迫ろうとする著者。倦むことのない渾身の取材の果てにその目に映じてきた「実像」とは？ 手間暇かけた“食”が人の心を打ち、やすらぎ・安心感を与えてくれるのはなぜなのか？ 一見いわゆる暴露本のような印象を与えかねない書名ですが、いい意味でその予想を裏切られます。読後に包まれる静かで深い感銘…丸ごと一冊これぞまさに「食育」本！

②天白図書館は、天白区のほぼ真ん中に位置し天白川沿いに昭和52年11月に開館しました。天白川沿いの緑道は、四季を通じて散策でき、特に春には桜並木が見事です。こんな自然の景色を残した当館は、約9万4千冊(児童図書約2万7千冊)の蔵書数をほこり、大きな窓から陽射しが入る明るい図書館です。また、保健センター等と連携し赤ちゃんに絵本をプレゼントする「ブックスタート事業」や子ども向けの「おはなし会」(英語のおはなし会もあります。)、昨年度から開催しています大人向けの「落語会」等の事業も定期的実施しています。

